

福島県富岡町
健康福祉課健康づくり係(保健師)

工藤 奈織美さん

年齢:48歳
出身地:青森県

※市町村任期付職員→市町村正規職員

●経歴●

平成11年	看護系大学で勤務
平成23年	いわき市でボランティア活動を実施
平成26年	富岡町任期付職員として勤務
平成29年	富岡町正規職員として勤務

いわき市でのボランティア活動を通じて、浜通りの今後の復興に関わりたいと思い、 富岡町任期付職員に応募

東日本大震災の際、私は栃木県で看護系大学の教員をしていました。震災発生後に、福島県で活動する看護職のボランティアを探していることを聞き、平成23年5月から土日を使っていわき市でのボランティア活動を始めました。借上げ住宅等に避難している方々のところに訪問して、健康状態を確認したり、被災体験をうかがったりしました。避難された方々の生活が落ち着いていく中で、「避難している方々の生活はこの先どうなっていくのだろう。全町避難を余儀なくされた浜通り地域はどのように復興していくのだろう。現場にもっと居合わせていたい。」と考えるようになり、浜通りで保健師を募集している自治体を探していたところ、ボランティア活動で知り合った方から、富岡町で任期付職員を募集しているという話を聞き、応募しました。

避難解除に伴い本庁機能を郡山市から富岡町に戻すタイミングで 任期付職員から正規職員へ転籍

平成26年から3年間の任期付職員として富岡町で勤務を始めました。当時は町内全体に避難指示が発令されており、本庁機能が郡山市にあったため、郡山事務所で勤務しながら福島県内に避難している住民の家庭訪問や健康相談、検診などを行っていました。

平成29年4月の避難指示解除に伴い本庁機能が富岡町に戻ることになりました。その年はちょうど3年間の任期満了のタイミングだったこともあり、町の人事担当者から「正規職員として今後も町で働かないか」と声をかけて頂きました。

私も、以前から正規職員として浜通りの復興に関わりたいと考えていたため、採用試験を受けることを決めました。現在は正規職員として、避難されている住民や町に帰還した住民の訪問活動を行っています。

Q&A

Q1. 富岡町で保健師として働かれている中で、お仕事のやりがいは何ですか？

訪問活動の中で、住民の皆さんと直接お話をする機会も多いです。避難指示解除に伴い町に帰還された方も、今も町外に避難されている方も、少しでも前を向いてもらえるように生活のケアをしていけたらと考えながら業務に携わっています。また町に帰還された方にお会いすると、町外で避難生活を送っていたときよりも柔らかい表情になったと感じることも多いです。富岡町で幸せな生活を送ってもらえるよう、町の保健師としてどのように関わっていくことができるかを今後一層考えていきたいです。

Q2. 町民全員が避難を余儀なくされた富岡町が、避難指示解除によりこれから少しずつ町内に戻る段階になりつつあるものと思います。今後の目標を教えてください。

これから富岡町がどう復興していくのかはまだまだ未知数ですが、避難先から富岡町に帰還した住民の方々に「町に帰ってきてよかった」と思ってもらえるように健康面からサポートしていきたいと考えています。また、大学教員時代に取り組んでいた「健康なまちづくり」という側面からも、今の貴重な経験を記録に残したり、5年・10年先を見据えた取組を他の職員とともに行っていきたいです。そのためにも、震災直後から現在に至るまで住民のために第一線で懸命に働いている役場職員に対するケアに今後は注力できたらと考えています。

これから被災地で働く方へメッセージ

「被災地で復興を担うぞ!」という気持ちはもちろん大切ですが、その気持ちは強すぎると時に弊害となることもあると思います。気負いすぎずに自分ができることは何かを常に考えながら、町の職員の方々をサポートする形からまずは始めてみるとよいと思います。